

## 「うれしい3月」になるはずでしたが……

校長 永井裕子

暖かい日差しに、校舎東側の白と桃色の梅の花が満開になりました。桜のつぼみも少しずつふくらみを増しています。子どもたちの声が消えた教室を寂しく回っていると、6年生の教室では、卒業までのカウントダウンカレンダーが「2月28日：卒業まであと15日」で止まったままでした。あの日は、長い臨時休校が急に決まり、別れを惜しむ間もなく「**今の学年で過ごす最後の1日**」を慌ただしく過ごし、大きな荷物を持って児童玄関を出る子どもたちを見送りました。子どもたちの健康を守るためには仕方がない措置であるとは思いますが、子どもの成長にかかわる仕事をしている私たち教職員にとって、一年中で1番うれしい月であるはずの「学校の3月」が突然消えてしまったことが、とても心残りです。子どもたちの1年間の成長を振り返り、価値付け、喜び合うことができる3月は、とても「うれしい月」だからです。授業日数は、わずか14日ではありますが、子どもたちにとっても、自分の成長を自覚し、進級・進学に向けての心構えをつくっていく大切な月なのです。

2月21日（金）には、5年生が中心となって、すばらしい6年生のこれまでの活躍をたたえた「**六年生を送る会（六送会）**」を行ないました。6年生の姿は、いつも紫竹山小学校の1～5年生の子どもたちが目指す姿となっていました。6年生のおかげで、行事や児童会活動、縦割り活動が充実し、紫竹山小学校が目指す「**思いやりがあふれる 温かい学校**」に近付いてきたことに、心から感謝しています。六送会に向けて、各学年で分担して、飾り、招待状、なかよし班（縦割り班）での六送会、6年生にチャレンジ、歌などの準備を進める中で、次第に6年生への感謝の気持ちが高まっていきました。当日は、「ありがとう」「おめでとう」のことばで6年生と在校生の心が響き合い、感動的なシーンがたくさんありました。紫竹山小学校の最高学年のバトンは、しっかりと5年生に受け継がれました。5年生は、きっと6年生の思いをしっかりと心に刻み、在校生をリードし、創立30周年に向けて、紫竹山小学校の伝統を守り繋いでいくことでしょう。

3月19日の**第29回卒業証書授与式**も、在校生みんなで力を合わせ、6年生への感謝の気持ちを声や態度に表して、6年生の心に残る最高の式にするつもりでしたが、それも今年度は叶いません。5年生の力が借りられない中、私たち教職員だけの手で、精一杯心をこめて式の準備を整え、在校生、来賓の皆様の方まで、保護者の皆様とともに、6年生の卒業を祝うつもりです。

さて、子どもたちは、家庭で、ひまわりクラブ（放課後児童クラブ）でどのように過ごしているのでしょうか？我慢しなければならぬことが多く、エネルギーを発散できずにストレスがたまってきている頃かもしれません。子どもたち一人一人を思い浮かべ、心配しています。今年度は、終業式も離任式も実施することができませんが、1～5年生には、26日に分散登校してもらい、担任から通知表を渡す予定になっています。子どもたちと再会できる日を楽しみにしています。

それまで、子どもたちには、保護者の皆様のご指導のもと、規則正しい生活を心掛け、計画的に学習し、新年度に向けた心の準備をしていてほしいと願っています。



最後になりましたが、保護者の皆様・地域の皆様、1年間、いつも温かくご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。